

動物學雜誌

(第三十二卷) 第三百七十九號

大正九年五月十五日發行

論說

●本邦産天社蛾の新種及新屬に就き

理學博士 松村松年

本年三月の本誌に五の末録種と十三の新種とを發表せるが、本夏更に十一の新種と二の新變種を得たれば爰に記載すべし、尙序に新屬十七を説明せん、今日まで余の知れる本邦天社蛾科に屬する昆蟲の總數は實に百四十四種なり、其内舊北洲に屬するの種類は百二十二種にして東洋洲に屬するの種類は僅に二十二種なり、ザイツ氏の著書に依れば、舊北洲に産する天社蛾の總數は百六十五種にして其内本邦に産するものは八十九種なり、之れを今歐洲に産する天社蛾の總數四十二種に比較すれば約其倍數なり、然るに余の今日迄の調査によりて見れば、本邦の昆蟲數は概して歐洲に産するものより遙に多く少くも三倍の數を産するものあるに到れり、歐洲に産する彼の天蛾科の昆蟲は二十八種にして、本邦に産するものは六十七種なるを以て觀ても是れ亦其約三倍に當る、比較的面積の少なき割合に本邦に昆蟲の多きは一は其氣候の半熱帯より半寒帯に跨がり居るが爲めにして、同時に多數の植物を産し居るが故なるべし、爰に掲げたる新種の昆蟲は多く柳河の高棟悌吉氏並に京都の杉谷岩彦、及び鈴木元治郎兩氏の採集に係るものなれば茲に其好意を公表す。

(一) スギタニシヤチホコ *Cnethodonta sugitani*

n. sp.

(論說) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

(♂) 前翅は灰白にして少しく綠色を帶ぶ、前縁及び翹底は灰白、紋條は綠黑色、翹底線は内方にく字形を呈し、其内方に當り前縁に一環狀紋あり、前横線は一双にして少しく内方に斜走し、其線間室は灰白、中脈の下方の内側に當り棒狀線ありて、之れは漸く翹底に達す、後横線も亦一双にして前横線と稍々相平行し、甚しく波狀をなし、其線間室は灰白、其外方に當り、第一、第四、第五及び第六室に劍狀紋ありて、何れも外方に尖る、尙亞外縁線は外縁に相平行し、少しく波狀を呈す、前縁の中央に二紋ありて判然せざる一雙の中横線を代表す、縁毛は地色と變りなし。

後翅は暗褐、前縁は廣く灰白、外方に二黒紋ありて、外側のものは大なり、縁毛は地色より少しく淡色、裏面、前翅は暗褐、翹底及び後翅は白色、下唇鬚は暗色、下面は白色、頭頂は白色、胸背は灰白、腹面は灰白、胸腹面は白色、(♀) 開張一寸五分、之れは信州追分にて昨年八月

(論 説) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

十一日理學士杉谷岩彦氏の捕獲せるものなるが、余の知れる範圍では之れはウニクムの標本にして他に發見せるものあるを知らず、其斑紋及び色彩より見れば少しくフライヤシヤチホコ *C. perdis* Moor. に似れども、翅は遙かに狭く、後横線は一層斜にして濃色を呈し判然す。

分布—信州(追分)。

(二) ホリシヤシロシヤチホコ *Cnethodontu hori-shanui* n. sp.

♂之れは一見シロシヤチホコ *C. grisescens* Shir. に酷似す、前翅は灰白、中室の中央に一暗色紋を具へ、少しく緑色を帯ぶ、後横線は判然せざる暗色にして、第六脈以上の外側に更に同様の一短線ありて之れと相平行す、之れより外方の四分の一は灰色なるを以て随て後横線は餘り判然せず、縁毛は暗灰色、後翅は暗褐、前縁は灰白、外側に一暗色紋あり、縁毛は暗色、裏面は暗色、翅底及び後翅は灰白、下唇鬚は暗色、下面は白色、頭及び胸背は白色、腹背は暗灰色、開張一寸三分、之れは昨年臺灣埔里社にて高棟梯吉氏の採集せるものなるが、之れも亦ウニクムの標本にして他に發見せるものあるを知らず、シロシヤチホコと異なる所は翅は遙かに狭く、前翅の横脈上並に外縁に黒紋を缺き、縁毛は兩翅共暗色なり。

分布—臺灣埔里社。

(三) フライヤシヤチホコ *Cnethodonta perdis*

Moor. var. *nigromaculata* n. var.

♀原種と異なる所は前翅は白色、後横線の外側に暗色紋を缺き、後縁の中央に稍々四角形の大黒紋を有するにあり、之れは昨年七月七日鈴木元治郎氏の函館大沼公園にて採集せるものなり、今日迄二種捕獲せられたるのみにて其一是京都鈴木元治郎氏の所有せるものなり。

附記—此原種は日光に最も普通なるものにして平山修次郎氏によれば其幼蟲は栲の大害蟲なりと。

(四) スズキシヤチホコ *Suzukishia (n. g.) susukihin* n. sp.

♂(♀)前翅は灰白、少しく黄緑を混じ、黒鱗を散在す、斑紋は黒色、翅底の一縦條は棍棒狀を呈し、稍々前横線に達す、前横線は一双にして波狀を呈し、第一脈の處にて内方にく字形を呈す、横脈上の短線は他の紋よりも、一層濃色にして判然す、後横線も一双にして鋸齒狀を呈し、其線間室は白色、亞外縁線は紋列となり、外縁の紋列と稍々相平行す、縁毛は黒色と白色の斑をなす、中脈並に第一乃至第四脈の大部は白色にして、其一圓は暗色を帯び、第二、第三及び第三室の中央に白色の劔狀紋を裝ひ、尙前縁に黒紋を散在す、尤も個種により前縁の暗色を帯ぶるものあり、又翅底紋の外他の紋の判然せざるものもあり、後翅は暗褐、外縁線は濃色にして稍々波

狀を呈す、縁毛の大部は灰白、裏面は灰黄色、前翅の前縁及び中央は少しく暗色を帯ぶ、頭及び胸背は白毛と黒毛を混じ、觸角の基部に白毛塊あり、腹背は暗褐、尾端は濃色にして、之れに白鱗を散在す、開張一寸五分、(♀)一寸八分、此種は初め鈴木元治郎氏の京都高尾山にて六月中旬採集せるものなるが、其後竹内吉藏氏は九月中旬長野にて採集し、杉谷岩彦氏は七月信州追分にて採集せり、尙其後北海道の諸處にも發見せられたり。

分布—北海道、本州。  
Suzukia 屬と *Ceuthodonta* Stær. 屬と異なる所は左の如し。

雄の觸角は短かき鋸齒狀にして、基部より稍々中央迄細毛を密生す、雌にては稍々糸狀をなす、頭部の鱗毛は短かし、前翅は遙かに細く、外縁は斜に一直直にして丸味を帯びず、横脈は弧狀を呈し、第五脈は其中央より出で、三分せる横脈の内最下部に位せる下横脈は頗る短かし、後翅の第八脈は基部より横脈の處迄稍々相平行し、前横脈と中横脈は、同長、端直にして一直線上に位し、下横脈は少しく長くして斜走す、基部の尾端は圓柱形にして、兩側に長毛を缺き、脚に長毛少なし、距は圓柱形にて末端は斜に截斷せられたるが如き觀を呈せず、此屬のタイプはスマキシヤチホコ *Suzukia suzuki* Mats. なり。

(五) ウグイスシヤチホコ *Suzukia olivacea* n. sp.

(論 說) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

(♀)前種に酷似すれども其異なる所は左の如し。

- 一、形遙に小なる事、開張一寸五分。
- 二、前翅全面に多數の綠色鱗を散在し、中脈下に黒色の棍棒線を缺く、前横線は判然せず、後横線は太くして緑褐色を呈し、一雙をなさず、亞外縁上にある紋列の中、第六及び第七室にある紋は大なり、外縁線は短く、縁毛は暗色と白色の斑をなせども、暗色毛多し。
- 三、後翅は一層濃色、隨て外縁線は判然せず。
- 四、裏面は後縁と同色、縁毛の末端は少しく白色を帯ぶ。
- 五、尾端には灰白鱗あれども黒色鱗を缺く。之れは京都にて鈴木元治郎氏の採集せるウニタムの標本なるが稀なるが如し。

(六) ヒラヤマシヤチホコ *Urodonta hirayamae* n. sp.

形及び大きさはクロボシシヤチホコ *U. branickei* Oberth. に酷似す、(♂)前翅は灰褐色、翅底、前横線、前縁の外半及び後縁角に黄緑鱗を散在す、翅底線は暗色にして細く、一雙より成り、少しく波狀を呈す、其外側の後縁に接して大なる鉛色紋あり、前横線は稍々判然すれども之れは前縁にて不明なり、其内側の一圓に黄緑鱗を裝ふ、中室の末端に弦月形の一黒紋を具へ、其内側に更に一黒紋あり。

(論 説) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

りて何れも後縁に判然せざる波状線を後縁に送る、後横線は一双にして波状を呈すれども判然せず、第四室の中央に近く黒紋ありて、其外側に弓状の暗色線を横走し、之れは第四脈の末端に開口す、其内側は白色なり、尙翅端に近く前縁より第七脈の處迄暗色の一短線を送る、前縁及び後縁に判然せざる暗色紋を列ぬ、後翅は暗色、後縁角に黒色弓状線ありて、其内側に一黒紋を具へ、縁毛は兩翅共暗色と白色の斑をなす、裏面は暗色、前縁の外半に黒紋を列ぬ、後翅は前翅よりも淡色、中央に一双の暗色帯ありて外方のもは判然し、波状をなす、頭及び胸背はクロボシシヤチホコと同様、腹背は暗褐にして、第一節に黒紋を缺く、開張(一)一寸五分、此は四月十四日平山修次郎氏の東京にて採集せるウニクムの標本にして高椋悌吉氏の所有に係るものなり、尙之れはマユミシヤチホコ *U. arcuata* ALPH. にも酷似すれども其異なる要點は翅底に近き後縁に鉛色紋を有すること並に稍々全面に渡りて黄緑鱗の散在するにあり、又後翅全部の暗色なるにより容易に後者と區別する事を得べし、甚だ稀なるが如し。

分布—東京(駒場)。

(七) オホトビモンシヤチホコ變種 *Naganoca* (n.g.)

*manleyi* IEBCH. ab. *takamukui* n. var.

○原種と異なる所は左の如し。

- 一、形遙かに小にして開張一寸四分、體長五分。
- 二、前翅は細く、長さ幅の約二倍半あり、前縁の中央に弓状の黒線ありて、之れに連續して前横線を後縁に送る、後横線は遙外縁に接近し、第四脈以上にては判然せず、之れは一見異種の觀あれどもオホトビモンシヤチホコ幼蟲の飼育中現はれ來りたるものにして、其食物の缺乏の爲め如斯く變形せしものならんか、此標本は高椋悌吉氏の所有せるウニクムの標本なり。

分布九州(柳河)。

從來オホトビモンシヤチホコを *Drymonia* HB. 屬に編入し來りたれども全く異なりたる新屬なれば茲に其特徴を記すべし。

*Drymonia* 屬と異なる所は左の如し。

- 一、(一)の觸角は鋸齒状を呈し、之れに刺毛を簇生す、下唇鬚は上向し、第三節は長くして其鱗毛は少ない。
- 二、前翅の第六脈は中室より出で、第五脈は第六脈よりも遙に細し。
- 三、後翅の第三脈は中室角より離れて遙其下方より出づ。
- 四、(一)の尾端は平たく、其兩側に毛塊を簇生す。

(八) フタジマシヤチホロ *Neotrymonia* (n.g.)  
*delia* LEECH.

此種は從來 *Drymonia* 屬に隸せしめ來りたる所、別屬なれば爰に説明すべし、*Drymonia* 屬と異なる所は左の如し。

- 一、(合) 觸角は鋸齒狀にして細毛を簇生す。
  - 二、前翅の第六脈は第七脈と分支し、短柄を有す。
  - 三、後翅の第三脈は明瞭に中室の後角前より出づ。
- 又 *Naganoa* 屬と異なる所は前翅の第六脈は第七脈と分支する事、第五脈と第六脈とは同經なること、(合)の尾端の兩側に毛塊を簇生せざる事等によりて區別し得べし、此屬のタイプは *Drymonia delia* LEECH なり。

(九) アオバシヤチホロ *Piparanga* (n.g.) *termita*  
*gna* BUTL. (= *Zangra zioankkana* MATS.)

此は從來 *Drymonia* 屬に置きたる所、全く異なりたる屬なるを以て爰に新屬を設けたり、最も近似の屬は *Zaranga Moor.* なり、而して其異なる重點は左の如し。

- 一、(合) 前翅の外縁は剝られず、第五脈は他脈よりも細し。
- 二、後翅の基部に抱刺を缺き、第五脈は他脈よりも細く、第七脈と第八脈の間に横脈を缺く。
- 三、中胸背に直立せる毛塊を具へ、第一腹節の背面上は毛塊の横隆あり。

(論 説) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

(一〇) クビワシヤチホロ *Shakia* (n.g.) *atrovittata*  
BREM.

此種は從來 *Microphalera* BUTL. 屬に編入し來りたれども全く異なりたる屬なれば爰に其異なる特徴を説明すべし。

- 一、(合) 觸角鋸齒狀にして、末端に到るに随ひ細少し、各節に筆狀の細毛を簇生す。
- 二、下唇鬚は前頭を少しく越へ、第三節は裸にして短く、第二節に對して直角をなす。
- 三、前翅は細長にして、第十脈と第七脈と相接して細形の小室を構成し、第六脈は小室の末端前より分支して出づ、横脈は太く、第五脈の起點の下方にて遮断せらる、後翅の第七脈は第六脈の稍々基部より分支して出づ、横脈は弓狀をなせども前後の基點は稍一直線上にあり、(*Microphalera* 屬にては甚しく斜傾す)。
- 四、後肢の脛節に長毛を簇生す。

(二) ウスアカシヤチホロ *Shachia* (n.g.) *subrosea*  
MATS.

此種は曩に本誌に於て記載したれども、其の屬を記せざれば序に其重要點を記すべし、此屬は *Drymonia* 屬に近似のものにして其異なる所は左の如し。

(論 說) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

- 一、下唇鬚は頗る短く、前頭に達せず、第三節は第二節の毛間に隠れて見えす。
- 二、(合)觸角は長き羽状をなし、末端の七節は鋸齒状を呈す(末端の一節を除き)。
- 三、前翅の第六、第七、第八、第九及び第十脈は第七脈より分支して出で、第十脈は第六脈より遙か外方にて分支す、横脈は中央にて稍々直角に屈折し、第三脈は遙後角の下方より出づ。
- 四、後翅の第六及び第七脈は外縁に近く分支し、其柄は頗る長し。

(三) マエジロシヤチホロ *Mimodonta* n. g. *alba*-  
*costa* n. sp.

(合)前翅は赤褐、前縁は基部及び外縁を除き白色にして、少しく紫色を帯ぶ、中室の一縦條、弓状をなせる横脈、第一室の一縦條並に第七脈の基部より中央迄縦走せる一條は黒褐、尙第七室の中央にも暗褐の一縦あり、一双の亞外縁線は灰黄にして少しく波状をなし、外縁に平行す、外縁線は暗色にして灰黄の脈にて遮断せらる、前横線、中横線及び後横線は淡色にして波状を呈し、何れも其内側は濃色線にて堺せらる、後縁に黒褐條を縦走し、其内側は灰白線にて堺せらる、總縁の縁毛は暗色にして、灰白毛を混す、後翅は暗褐、外縁に近く灰黄の太き弓状帶あり

りて縁毛は灰白、少しく暗色毛を混す、裏面は灰褐、前翅中室の外方に赤褐部あり、後翅の横脈紋は判然し、中央に赤褐をなせる波状の一帶ありて、稍々點線状をなす、體及び觸角は赤褐、翅底鱗及び尾端に灰白毛を混す、開張(合)一寸七分、余は二頭の標本を所有す、何れも平山修次郎(氏)の日光(六月下旬)及び秩父(七月下旬)にて採集せるものなるが、其内の一頭は高椋悌吉氏の好意によりて寄送を受けたり、高椋氏は尙一頭の標本を所有せるを以て余の知れる範圍では本邦に三頭の採集せられたる標本あるが如し、定めて珍種なるべし。

分布—日光、秩火。

*Mimodonta* 屬の特徴—最も *Notodonta* に近似せるが其異なる所は左の如し。

- 一、下唇鬚は水平にして細長く、第三節は裸にして明に前頭を越ゆ。
- 二、前翅の第六脈は第七脈の基部より分支し、第十脈は第七脈と相接して小室を構成し、其尖端より第八脈を分支せしむ、第三脈は中室の後角を離れて遙下方より出で、第四脈と第二脈との距離は1と3の割合なり、後縁の中央にある總縁の突起は稍々半卵形をなす。
- 三、後翅の第三脈は中室の後角を離れて下方より分支す。

(三) マルモンシヤチホコ *Mesodontu (n.g.) no- fundatu n. sp.*

前翅は灰色、翅底に近く圓形の大黒紋ありて、其内外兩側に弓状の黒帯を具へ、之れと黒紋との間室は灰黄なり、中室及び前縁は灰白、後横線は暗色、小かき波状を呈し、其外側は灰色の同様線にて縁取られ、後翅の中横線に連續す、前縁には其内側に當り一暗色紋を具へ、外縁に近き前縁には灰白と暗色の斑あり、亞外縁線は太くして稍點紋條を呈すれども、餘り判然せず、外縁線は暗色、脈にて遮斷せらる、後翅の前半は灰白、後半は暗色、暗色の三帶ありて、最も外側にあるものは太く、何れも前半にて判然ず、縁毛は灰白、前翅にては少しく暗色を帯ぶ、裏面は灰色、前翅の基半は暗色、前翅には二條、後翅には三條の暗色帯ありて、後翅の最も外側にあるものは餘り判然せず、頭胸は前翅と稍々同色、腹部は灰黄基部は黄褐、開張(♂)一寸五分(♀)一寸七分、此は *Notodontu Oberthüri* Sten. に近似の種類にして著者は平山修次郎氏の秩火(八月三十日)高椋悌吉氏の碓井峠(八月二十七日)にて杉谷岩彦氏の熊ヶ平(七月二十三日)にて採集せる三頭(♂♀)の標本を所有す、稀なるが如し。

(四) タマゴシヤチホコ *Mesodontu orata n. sp.*

(論 説) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

(♂)前種に稍々近き種類にして、前翅は暗灰色、紋條は黒色、翅底に稍々卵形の灰黄紋ありて、其周圍は黒色、前横線は小かき波状を呈し、第一室の處にてく字形をなして内方に屈折し、其内側は黄色、横脈は黒色、之れより後縁に判然せざる暗色の中横線を送る、後横線は波状を呈し、後縁にて判然し、其外側は淡色の同様線にて縁取らる、後縁の總毛は褐灰なり、後翅は灰色、中央に判然せざる暗色の一帯あり、裏面は灰色、頭胸は暗褐、前胸は灰色、腹背は灰黄、基部の毛塊は黒色、開張一寸三分之れは本年八月三十日平山修次郎氏の秩父にて採集せるウニクムの標本なり、*Mesodontu* 屬の *Notodontu Och.* と異なる所は左の如し。

- 一、觸角(♂)鋸齒状を呈し、齒は末端に到るに従ひ次第に細小し、各節に筆状毛を簇生す。
- 二、複眼に毛を缺く。
- 三、前翅の横脈は不完全にして、唯だ前横脈のみ判然し、弓状をなす、前翅の後縁にある總狀の突起は半楕圓形を呈し大なり、後翅の横脈上に横脈紋(Notodontu 屬にては何れも横脈紋を有す)を缺く。

此屬を代表するタイプはルリモンシヤチホコ (*Notodontu monetaria* ORTH.) なり、隨て此屬に隸せしむべきものは左の十種なり。

- 一、ルリモンシヤチホコ *Mesodontu monetaria* ORTH.
- 二、セアカシヤチホコ " *oberthüri* ORTH.

(論 說) ○本邦産天社蝶の新種及新屬に就き (松村)

- 三、マルモンシヤチホコ *Mesodontia rotundata* MARS.
  - 四、タマゴシヤチホコ " *ovata* MARS.
  - 五、ナカキシヤチホコ " *sigantia* BUTT.
  - 六、ハネナガシヤチホコ " *moorei* HAMR.
  - 七、アカネシヤチホコ " *lahivita* WILEM.
  - 八、ニトベシヤチホコ " *aliena* STGR.
  - 九、イシダシヤチホコ " *ishida* MARS.
  - 一〇、ネキシヤチホコ " *graseri* STGR.
- 尙本邦に産する *Notodontia* 屬の種類は僅に左の三種あるのみ。

- 一、フタラビシヤチホコ *Notodontia tritophus* ESP.
  - 二、タラスヂシヤチホコ " *rothschildi* WILEM. et SOUTH.
  - 三、トビスヂシヤチホコ " *stigmatica* GRÜNB.
- 附言—グリーンブルグ氏は此最後のものを *Hypodontia pulcherrima* BUTT. の變種となせども全く誤れり。

- (一五) タラスヂシヤチホコ變種 *Notodontia rolh. schilli* WILEM. et S. var. *sachalinensis* n. var.

(一六) 原種と異なる所は前翅は一層灰色を帯び、翅底、後縁及び翅端の赤褐紋若くは黄褐紋を缺き、赤褐の亞外縁線は細く、後横線の外側(前後の兩端)のみ黄色なり、之れは本年七月二十三日樺太大泊にて一色周知氏の採集せるものなり。

分布—樺太(大泊)。

- (一六) ノスヂシヤチホコ *Fusodontia* (n.g.) *bassini-nea* WILEM.

此種は從來 *Notodontia* 屬に編入し來りたる所、別屬とするの特徴あるを以て爰に記載すべし、*Notodontia* 屬と異なる所は左の如し。

- 一、觸角の基半は楕齒狀を呈すれども、末端の半部は鋸齒狀を呈す (*Notodontia* 屬にては約末端の四分の一のみ鋸齒狀を呈す)。
  - 二、前翅後縁の中央にある總狀の突起は大にして稍々半楕圓形を呈す (*Notodontia* にては稍々三角形を呈す)。
  - 三、後翅に横脈紋を缺く。
- 尙 *Mesodontia* 屬と異なる重點は觸角の楕齒狀を呈するにあり。

- (一七) ウスグロシヤチホコ *Epinotodontia* (n.g.) *fumosa* MATS.

此種は曩に本誌に於て新種として發表せるものなるが其當時新屬を記載せざれば今爰に記載すべし。

此は *Notodontia* 屬に類似すれども其の異なる所は左の如し。

- 一、(一六) 下唇鬚には長毛を簇生し、前頭の毛塊に達す、



第三節は第二節の毛塊に包まれて判然せず。

二、複眼に毛を有せず。

三、觸角は鋸齒狀にして刺毛を簇生し、兩端の鋸齒の高さには餘り大差なし。

四、前翅は廣くして、第六脈は中室より出で、第五脈は明瞭に第四脈よりも第六脈に近し。

五、後翅も亦廣く、外縁は圓じ、前縁及び横脈上に斑紋を缺く。

其翅脈及び觸角の點より見れば *Naganoea* *Mars.* にも類似せり、然れども其異なる重點は下唇鬚の第三節は短くして第二節の毛塊に隠れて判然せざること、後翅の第六及び第七脈は分支して、長柄を具へ、尾端は細く、兩側に毛塊を缺く等によりて容易に區別し得べし。

(六) タカムクシヤチホコ *Takadonta* (n.g.) *tukuhiki* n. sp.

(合) 前翅は暗灰色、前横線及び後横線は暗色にして波状をなし、何れも一雙より成れども内側にあるものは判然せず、外側のもは後縁にて顯著なり、横脈紋は黒色にして判然す、後横線の外方一圓は灰色にて、前縁に一白紋あり、第四乃至第七室には黒色の一縦條を具へ、第七室にあるものは最も顯著なり、第一乃至第三室には黒點を裝ひ、翅端に近き前縁に灰白の小點を連ね、外縁線は少しく濃色、後縁の總狀毛は黒色、後翅は灰色、外縁線

(論 說) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

は分しく濃色、縁毛は前翅と共に灰色、裏面は灰色、前翅の前縁に暗色の一紋を具へ、其外側に灰白紋を裝へ、後翅の中央に弓状の一暗色帯あり、頭及び胸背は暗灰色、頭に白鱗多し、腹部は灰色、開張一寸五分、之れは信州上高地にて高椋悌吉氏の採集せるウニクムの標本なり。

分布—信州(上高地)。

此屬は *Epinotodonta* *Mars.* に近似のものなれども其異なる所は左の如し。

一、(合) 下唇鬚は前頭に達し第三節は小なれども判然し明瞭に斜に下方を向く。

二、觸角は鋸齒狀にして末端に到るに隨ひ細小す。

三、前翅の第六脈は第七脈と分支し、長柄を有す、後縁の總狀毛は小にして稍々三角形を呈し、後翅の第三脈は中室の後角より出づ。

(一九) ウススチシヤチホコ *Neopheosia* (n.g.) *fasciata* *Moor.*

之れは從來 *Theosia* *Hrb.* 屬に隸せしめ來りたれども別屬なるを以て爰に其異なる重點を説明すべし。

一、(合) 觸角は櫛齒狀にして、末端の三分の一は糸狀を呈し、末端に到るに隨ひ次第に尖小す。

二、前翅の第六脈は第七脈より分支して出で長柄を有し、(*Theosia* 屬にては第六脈は中室若くは中室の

(論 説) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

前角より出づ、第五脈は中室の前角に近く出で、第十脈は第七脈よりも少しく後方より分支して出づ、後翅は、廣く外縁及び前縁角は廣く圓し。

三、第一腹節に剛毛塊を簇生す。

但し *Phosia* 屬にありては、觸角は末端迄櫛齒狀を呈し、第一腹節には剛毛塊を有せず。

(二) ナカボシシヤチホコ *Hyperechesha niseoi-*

*alis* n. sp.

(一) 前翅は暗灰色、前横線及び後横線は濃色にして波狀を呈し、後者は第三乃至第七脈の處にて犬牙狀に突出すれども、何れも餘り判然せず、中室點及び横脈紋は黒色にして判然す、前縁に後横線の外側に當り一灰白紋を具へ、第二脈の分支點の下方に一黒紋を裝ふ、外縁線は濃色にして脈の處にて遮斷せらる、後翅は灰色、中央に一淡色帯あり、縁毛は前翅と共に地色なり、裏面は後翅と同色、前翅の中央に暗色の一帯ありて判然す、後翅は少しく淡色、觸角の末端の三分の一は鋸齒狀を呈し、頭、胸は前翅と同色、腹部は後翅と同色なり、開張一寸六分、此は臺灣にて高椋悌吉氏の採集せるウニクムの標本なるが、其詳細の産地は判然せず、定めて埔里社ならんと云ふ。

分布—臺灣。

一〇

(三) モンキシロシヤチホコ *Leucodontu bicolo-*

*ria* SCHIFF. var. *tennana* n. var.

原種と異なる所は前翅の黄色部に黒鱗を散在し、第一室の外縁には黄紋の代りに黒紋を具へ、第二室には黒紋を缺く、之れは札幌手稻山にて一色周知氏採集せるウニクムの珍種なり、此原種は日光地方に稀ならず。

分布—札幌(手稻山)。

(三) シロツエグリシヤチホコ *Fusapteryx (n.g.)*

*radislai* OBTI.

此種は從來 *Lophopteryx* STEPH. 屬に編入し來りたれども、新屬とすべきものなるを以て其異なる特徴を記載すべし。

一、(一) 觸角は櫛齒狀を呈し、末端の六、七節のみ鋸齒狀を呈す。

二、複眼に毛を有せず。

三、前翅の外縁は次第に丸味を帯び、第四脈の處にて突出せず (*Lophopteryx* 屬にては翅端より第五脈までは端直之より次第に傾斜して後縁に至る)、外縁の縁毛は剝られず。従て脈の末端は突出せず、後縁に於ける總狀突起の外側は剝られず。

四、後翅の縁毛は剝られず、第六及び第七脈は長柄を裝ふ、又 *Olonotia* HB. 屬と異なる所は下唇鬚は

長く發達して頭頂を越へ、口吻を具へ、前後翅の外縁毛は列られず。

(三) ハガタエグリシヤチホコ *Togopterix* (n. sp.)  
- *velutina* OBTB.

此種も亦從來 *Tophopteryx* 屬に隸せしめし所、別屬に係るものなれば其異なる所を記すべし。

一、(♂)觸角は櫛齒狀を呈し、末端の六節のみ鋸齒狀を呈す、(♀)の觸角は鋸齒狀を呈し、各齒の末端は尖る。

二、複眼に明瞭なる長毛を裝ふ。

三、前翅の第六脈は中室より出づ、後縁の總狀突起は小にして遙か内方に位し、其處に前横線を開口す、後翅の第六及び第七翅は長柄を有す、前後翅共外縁毛は列られず、外縁は低く弓狀に突出す。

四、(♂)腹端の兩側に毛塊を有せず、

(四) ハガタエグリシヤチホコ *Hagapteryx velutina* STEIN.

此種も亦 *Tophopteryx* 屬に編入し來りたるものなるが、新屬なれば其異なる所を記すべし。

一、(♂)觸角は櫛齒狀を呈し、末端半部の櫛齒は短かく、後半の櫛齒は長くして其末端は細小す。

(論 說) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

二、複眼は裸なり、

三、前翅は細く、第六脈は中室の前角より出で、第五脈は中央脈の中央より少しく下方より出づ、第十脈は第十一脈と前角との中央に位し、第七脈は前縁に開口す、後縁にある總狀突起は大にして、前横線と後横線の間中間にあり、後翅の第六及び第七脈は長柄を具へ、兩翅共横線紋を裝ひ、後翅の内角に斑紋を缺く。

四、中胸背に冠狀の突起を缺き、腹端の兩側に毛塊なし。

(五) クシヒゲシヤチホコ *Philophoroides* (n. sp.)  
*nohive* n. sp.

此種は從來 *Philophora pumigera* と鑑定せられあり、たれども別種にして更に別屬に係るものなるを以て爰に説明すべし。

前翅は淡黄褐、前横線及び後横線は濃色にして波狀を呈し、前横線にては其内側、後横線にては其外側にて淡色、前横線は弓狀を呈し、後横線は前縁より第三脈の處迄弓狀に曲がり、夫れより端直となりて後縁に斜走す、横脈上に弦月形の淡色紋あり、縁毛は長く、縦脈は黒鱗を有するを以て判然せり、後翅は半透明、前翅よりも淡色、中央に暗色の一帯あり、頭及び胸部は前翅と同色、觸角は灰白、羽狀枝は黒色、腹部は黄褐にして美麗なり、

(論 說) ○本邦産天社蛾の新種及新屬に就き (松村)

之れは吉野にて野平安藝雄氏の初めて採集せるものなるが、其後平山修次郎氏は昨年十二月二十八日東京にて捕獲し、高椋悌吉氏は十二月三日京都にて採集せり、未だ(♀)の捕獲せられたるを聞かず、

分布—東京、京都。

*Phlophoroides* 屬の *Phlophora* STEPH. と異なる所は左の如し。

- 一、(♂)觸角は長き羽狀枝を具へ、各枝の兩側には長細毛を列らぬ、終りの九節にある羽狀枝は何れも末端に達するを以て、恰も截斷せられたるの觀を呈す(♀)にては糸狀を呈し細毛を裝ふ。
  - 二、下唇鬚は頭の長毛に蔽はれて見へざれども、末端は稍々裸にして棍棒狀に膨大し、第二及び第三節には長毛を裝ふ。
  - 三、前翅は第九脈(II<sup>2</sup>)を缺き、第六脈は第七脈より分支す。
  - 四、前脛節に葉狀の附屬物を缺く。
- 此屬のタイプは次ぎの *P. jezoensis* MUR. なり。

(三) エゾクシヒゲシヤチホコ *Phlophoroides*

*jezoensis* n. sp.

之れは一見枯葉蛾科のヲビカレハに酷似せるの種類なり。  
(♂)前翅は黄褐、前横線及び後横線は白色、前者は判然

し、中室の處にて少しく外方に弓曲すれども、後者は端直にして前者に平行して斜走す、後横線の外方は他よりも少しく濃色なり、後翅は前翅よりも淡色、半透明、中央に白色の判然せざる一帯ありて、縁毛は兩翅共、地色なり、觸角は黒色にして灰白鱗を裝ひ、羽狀枝は淡黄褐にして基部の毛塊は黄白なり、頭胸は前翅と略同様なれども、少しく淡色にして、前翅は細長、觸角は糸狀を呈し、各節の接合部は黒色なり、開張(♂)一寸一分、(♀)一寸四分、著者は十月上旬定山溪にて、一頭の雌と三頭の雄を捕獲せり、稀なり。

分布—札幌。

(三) クロシタシヤチホコ *Mesophalera* (n.g.) *signata* BUTL.

此種は從來 *Phalerb* 屬に編入し來りたたども別屬なれば爰に其異なる要點を記すべし。

- 一、觸角は低き櫛齒狀を呈し、各齒の末端は細小し、之れに筆狀の細毛を簇生す、但し末端の約三分の一は稍々糸狀に近し。
- 二、前翅の第六脈は第七脈より分支し短柄を有す、小室を缺き、外縁は第三脈より後縁角迄急に斜傾す。
- 三、頭頂に毛塊を具へ、隨て觸角の基部にする毛塊は判然せず。

四、腹部の第一、第二及び第三節に毛塊を具へ、脚は太し。

(三) オホキシヤチホロ *Pydina magna* n. sp.

(♀) 前翅は灰褐、前縁の外半、外縁及び後縁は黄色横脈上の一帯は黒色、翅端角を等分せる一縦線は灰褐にして太く判然せり、尙其下方にも判然せざる同様の一短線あり、外縁に近く第一乃至第五室に判然せざる一黒紋を列ね、其内第四及び第五室にあるものは稍々判然す、尙全面に

灰褐の鱗毛を散布す、縁毛は灰褐、後翅は淡黄、縁毛は白色、裏面は灰白、前翅の縁毛は灰褐、下唇鬚は黄色、基部に黒鱗を散在す、觸角は粗なる羽状を呈し、頭胸は黄色、腹部は淡色なり、前翅の第十脈は小室よりも遙か前方より出づ、開張二寸四分、之れは五月下旬臺灣埔里社にて高梯梯吉氏の採集せるウニクムの標本なり、之れは印度地方に産する *P. testacea* Wk. に稍々近似のものなり。

分布—臺灣(埔里社)。

### ●生物發光物質の理化學的研究

#### 四、海螢 *Luciferase* の理化學的性質について。

神田 左 京

- 一 序言
- 二 材料及び方法
- 三 *Luciferase* の溶解性と沈澱性
- 四 『實驗用濾液』の色反應
- 五 アルカロイド類での沈澱
- 六 *Luciferase* の鹽出沈澱
- 七 *Luciferase* の熱凝固
- 八 アルコール及びアセトンでの沈澱
- 九 『免疫血清』での沈澱

- 十 *Luciferase* の Dialysis 及び Cataphoresis
- 十一 電氣傳導度
- 十二 討議
- 十三 摘要
- 十四 文献

#### 一、序言

始め Harvey は海螢の發光分泌物には、蛋白質の化學的反應がないといふことを觀察した(三三三二頁)。所

(論) ○生物發光物質の理化學的研究 (神田)